「室外機」

砂時計が時を刻まない。
上のガラス球には、海の水。
下のガラス球には、積乱雲。

いつの日か、水滴の全てが雲になり、
この砂時計は焼けて、ただれて、

熱い風の中で、
立ち尽くしてしまうのであろう。

この星の涙すら、
日照りの砂に変わり、
人は土の中で凍える。

写真　照屋 林賢/文　東 正任